

(2) 委員による講評

○委員長 それでは、先生方と講評について確認させていただきました。まず、総合評価として1、2、3、4がございますが、実施していただきたいということで、1としたいと思います。

ただし、いろいろ注文をつけさせていただきたいと思います。委員の先生方から多く出たご意見としては、この研究をやった結果の強みが少し分かりにくいというのがありました。本研究を進めることによって、どの部分が一番強みになるのかというところの説明が少し不足していると思います。

私も先ほど発言させていただきましたが、本研究は、災害が起こった時に、スポット的な場所について対応するような技術の開発だと思うのですが、南海トラフ地震のような大型災害の中においても、やはりスポット的な対応が必要な場所があるわけです。そういった大型災害にどのように本研究成果を織り込んで対応していくのかを明確にさせていただきたいと思います。

実際には広域災害を考慮に入れる必要があると思いますし、マルチハザードも考慮しないといけないと思います。その中において、この技術はどのように使えるのかということ意識されて取り組んでいただきたいと思います。

事前評価表の10. の(4)「地理地殻活動の地球科学的解明」のところで、「様々な地理空間情報を活用して、地形やその区分の類型等を検討することで、地球の表層や地形に対する成り立ち・現状・将来像の解明に貢献する」とあります。この文章はそのままですけれども、本研究がそれに貢献できるとすれば、浸水被害、あるいは火山災害において、非常に細かく時系列的に追うことができるということかと思います。本研究から出てきたデータが10. (4) に書かれている「地球の表層や地形に対する成り立ち・現状・将来像の解明に貢献する」ものだと考えておりますので、その点も意識して研究を進めていただければと思っています。

共同研究を行うということですが、研究を進める中で、今後も様々な衛星が打ち上げられると思います。そういった技術やデータ、さらにドローンなどの技術の発展を鑑み、この技術をどのように取り込んでいくかということが必要です。それから、実際に災害現場で使うことを想定し、それにどのように本研究を組み込んでいくということも考慮に入れつつ、精度検証も行い、柔軟に研究を進めていただければと思います。

当初の研究予算と研究計画を決めて研究を開始するわけですが、技術の変化が非常に速いので、予算や計画についてフレキシブルに対応していただいて、研究を進めていただければと思います。

これからの日本にとって、この技術は必要だとは思いますが、その適用に関して、まだよく理解できないところもあります。そのあたりを意識して、きちんと考えて説明していただければと思います。また、最終的には、国内の災害だけでなく、国際的にも貢献できるということを意識されて研究を進めていっていただければと考えます。

事前評価表は文章としては基本的にこれでよろしいかと思います。

先生方から付け加える御意見はございますか。

いろいろ注文を付けましたけれども、それらを意識して研究を進めていく、あるいは説明をしていくというところをお願いします。

それでは、私からの講評は以上とさせていただきます。